

スマートIC設置で国道1号の渋滞回避、交通混雑の軽減

～亀山PAスマートインターチェンジ～

道路名	東名阪自動車道
所在地	三重県亀山

三重県亀山市は、人口約4万9千人¹で県内14市中10番目の市ですが、高度経済成長期からの高速交通網整備等に伴い、大規模な工業団地が整備され、平成17年の人口一人当りの製造品出荷額は県内2位となっています²。また亀山市の産業別就業人口のうち、第2次産業の従事割合は4割強で³、県平均と比較して、「ものづくりに重点をおいた市」と言えます。

スマートICに近接した亀山関テクノヒルズ・名阪亀山関工業団地には、「亀山モデル」と銘打ったモデルを製造する国内大手の液晶テレビメーカーなど、三重県の液晶素子等電子部品の出荷額を国内最大⁴に位置づける原動力となる工場が誘致されています。その工業地帯には約4千人の従業員が勤務し、その大半が自家用車により通勤しているため、当該スマートIC設置以前は、周辺の工業団地への通勤交通等により、「小野町西交差点」付近の国道1号で朝・夕に慢性的な大渋滞(最長4km)が発生していました。

スマートICの設置による交通分散化(1,100台/日が亀山ICからスマートICへ転換)により、朝・夕に発生していた交通混雑は最大で1,540mと大幅に軽減され(図4)、渋滞緩和効果が発揮されています。

また、亀山関テクノヒルズ・名阪亀山関工業団地などの周辺企業8社のアンケートでも、スマートICの設置が交通混雑の緩和等に資するものであるとの回答が得られています(図5)。

東名阪自動車道へのアクセスが改善し(平均約7分の短縮⁵)、平日では周辺工業団地への運送や、通勤に、約1,400台(H16.12～H19.2平均)がスマートICを利用し、通勤・物流時間の短縮や、周辺の生活道路の交通安全、環境改善に役立っています。

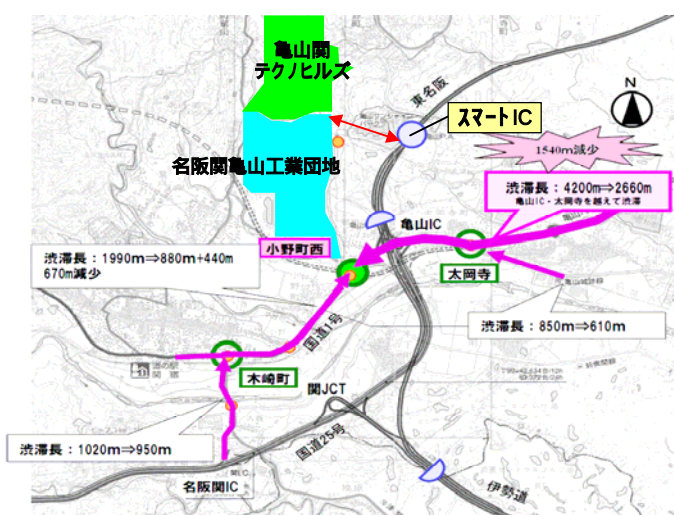


図4 亀山IC周辺の交通混雑解消状況

渋滞長：実験前 実験中

調査時間帯(6-9時)の最大値を比較

実験前調査：平成17年12月13日

実験中調査：平成18年2月28日

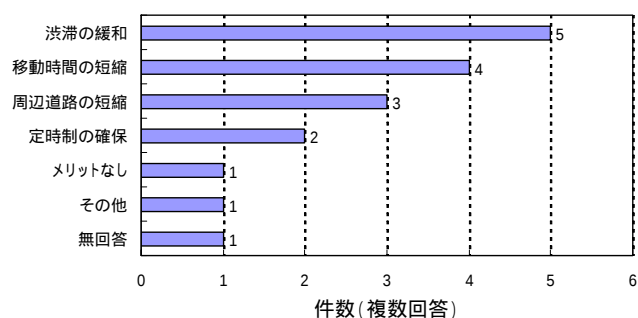


図5 亀山スマートIC設置メリット

出典

- 1：亀山市ホームページ(平成19年2月1日時点)
- 2：三重県 政策部統計室資料(H17.12)
- 3：平成12年国勢調査結果
- 4：経済産業省 工業統計(H14度)
- 5：亀山スマートIC 社会実験協議会 調査結果